

内閣総理大臣 安倍 晋三 殿

沖縄県辺野古への新基地建設中止を求めます

三重県生活協同組合連合会は、「平和とよりよい生活」をスローガンに、組合員や消費者の暮らしを守る運動や活動を続けています。

戦争や核兵器によって、二度と同じ惨禍が繰り返されないよう平和な社会をつくっていくことを大切にしています。戦争を二度と繰り返さないために、平和を脅かす動きには一貫して反対し、私たちは力を合わせて平和を守るための活動をおこなってきました。

平和を守る活動の一つとして、全国の生協や生協連合会は、毎年3月に「沖縄戦跡・基地めぐり」に参加し、沖縄戦の実相と米軍基地が集中する沖縄の現状を組合員や役職員が学んでいます。ヒロシマ・ナガサキでの式典や、三重県内に残る戦争遺跡や戦争・被ばく体験者からも平和の大切さを学んでいます。

今年2月24日に、在日米軍海兵隊普天間飛行場の代替施設として沖縄県名護市辺野古地区に計画している米軍新基地建設のための埋め立てに関して「県民の意思を的確に反映させること」を目的に沖縄県民投票が実施され、埋め立てに「反対」は43万4273票で投票総数の71.7%を占めています。投票資格者の総数は115万3591人で、投票総数は60万5385人でした。

日本の国土面積のわずか0.6%である沖縄県に、在日米軍基地の74%が集中し過重な負担が強いられています。

沖縄県に米軍基地が集中している現状は到底容認できない、総理は沖縄県の県民投票結果を真摯に受け止め、基地負担の軽減に全力で取り組むと述べられました。

しかし、沖縄県民の強く切実な願いに応えることなく、辺野古への基地建設がすすめられています。これは、沖縄県民や、平和、環境に関わる重大な問題を無視するものであり、民主主義を否定するものだと考えます。

武力や戦争で、決して平和は守れません。沖縄県だけでなく、日本のどこにも軍事基地はいりません。沖縄県民の圧倒的な民意を尊重し、辺野古への新基地建設の中止を強く要望いたします。

2019年5月29日

三重県生活協同組合連合会 理事会

三重県生活協同組合連合会 平和活動委員会

